

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400013		
法人名	社会福祉法人 双葉会		
事業所名	双葉会高齢者グループホーム双壽園		
所在地	阿南市見能林町南林258-5		
自己評価作成日	平成27年9月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山崩れのない、洪水のない、津波のない、小鳥と共生の園舎で、自然な家庭的日常生活の中で、地域と喜びを共有し、生活を活性化させ、安心と安定を図り生き生きと仲間と老いを楽しく暮らしていただいている。双葉会は地域の自主防災会に参加するとともに、独自でも自主防災会を作っている。災害時に地域の避難場所になっており、災害時には自主防災協力委員3名がおられ、避難のご協力をいただくことになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に海水浴場や松林の広がる自然豊かな高台に位置している。事業所独自の理念と四つの心得を掲げ、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。地域住民やボランティアとの交流も活発で、利用者の笑顔を引き出す機会を多くつくるよう工夫をしている。利用者や家族の相談にも積極的に応じている。小鳥のさえずりや温かい陽射しに包まれる環境のなか、利用者は穏やかでゆったりとした時間を過ごしている。近隣には同一法人の運営する他サービス事業所が多数あり、災害時の一時避難場所として指定を受けたり、自主防災協力委員を配置したりして、地域の一員として活動を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修計画に理念について話し合う機会を設け職員全体が共通認識するよう取り組んでいる。	事業所の理念として、“無条件の尊重”“四つの心”などを掲げ、日頃の支援に取り組んでいる。朝礼時に理念を唱和したり、勉強会等の機会に話し合ったりして、職員間で共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や近隣の方より地域の行事などの情報を収集し催しなどに参加させていただき積極的に交流を行うよう努めている。また、事業所の防災訓練には地域住民に参加を呼びかけ相互交流を図っている。	避難訓練やボランティアの受け入れなどの機会に、積極的に地域住民と交流を図るよう努めている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所の利用者や交流できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の各種役員を進んで引き受けている。高齢者福祉をテーマに地域座談会をもって話し合いを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催し、事業所の運営状況や運営計画、サービス利用の状況などを報告している。また、その際の問題点や課題を抽出しそれぞれの立場からの意見交換を設けサービスの質や向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族や地域住民、市担当者等、様々な方の出席を得ている。議題にそって意見交換や改善課題を話し合っている。また、家族から出された意見は、事業所の運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市へ毎月の提出書を提出の際に事業所の取り組みや困難事例等について報告、相談を行い助言をいただく事で協力関係の構築となりサービスの質の向上となるよう努めている。	日頃から職員は、市担当者に相談したり、要望や実情を伝えたりしている。市担当者と密に連携を図りつつサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や勉強会の際にマニュアルを用いながら身体拘束について話し合い理解を深めている。利用者の特性を把握しおこりうる問題について検討を重ねている。	日頃から事業所では、利用者一人ひとりが自由に暮らすことができるような雰囲気づくりに努めている。玄関に感知センサーを設置しているが、つねに職員が見守りを徹底するなどして、安全に自由な生活を送ることができるよう留意している。事業所では身体拘束の廃止を掲げて取り組んでおり、職員会議や勉強会の際に、拘束・虐待・人権等について学習する機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会・職員会議で取り上げ対応方法を検討している。マニュアルも作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを通して職員会、勉強会で勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に基づき、十分な説明を行い理解し、納得していただき署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞くように努め、日頃から気軽に話せるような関係作りに努めている。出された意見や提案等は職員間で話し合っ質の向上や施設への信頼関係が深まるよう取り組んでいる。	月1回、家族が利用料の支払いに来訪した際などに、職員から意見や要望を聞いたり、相談に応じたりしている。利用者や家族から出された意見や要望等は、職員間で話し合っ運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎日のミーティングや勉強会を通して職員の意見や提案、不満等気軽に話せるような雰囲気作りを行っている。また、一人ひとりと個別な対話を行い職員の意見を取り入れるよう努めている。	代表者や管理者は、日頃の業務を通じて職員の意見や要望を把握するよう努めている。気軽に話し合うことのできる関係を構築しており、職員から出された意見や要望等は運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の業務内容や努力、成果を把握する事で適切な評価を行い、やりがいのある職場環境作りに取り組んでいる。資格取得に関しても法人内勉強会や外部研修の参加を行いバックアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の知識や技術が向上するよう研修会や会議を開催しており外部研修へも受講できるよう支援を行っている。参加者は伝達を行い事業所全体のスキルアップにつながる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特にしていないが、双葉会には小規模多機能型の施設もあり、双葉会の中でいろいろ話し合い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時にご家族とも一緒によく話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時など、十分な話し合いによりご家族の気持ちや求められている事を受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で生活状況を把握しながら本人の要望、不安に思っている事を傾聴する事で思いを受け止め安心感を与えられるよう又早い段階で信頼関係が構築できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊重しながら、利用者の得意、不得意等を把握しながら、出来ない事を一緒に行ったり利用者同士が共に支え合い協力して生活していけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人の様子や思いを報告する事で連携を密にし、家族の絆を大切にしていたきながら介護についても共に協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族とのやりとりの中から交友関係やご近所、親戚の方などを把握し、いつでも気軽に施設に来訪していただけるよう支援を行っている。	併設の同一法人の運営する他サービス事業所の利用者との交流を図る機会が多い。また、地域のボランティアや小学生を受け入れ、ダンスや美容講習、餅つき、マンドリン演奏等で利用者との交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「いつもみんな家族」をモットーにしているので、丸い大きなテーブルを囲んでお話をしたり、時には散歩で車椅子を押したり、お世話をして下さることもある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの暮らしの継続性ができるように生活環境、支援の内容など必要に応じて情報提供を行っている。また、本人や家族にはいつでも相談に応じる事を伝えている。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や意向を本人、家族からの情報により把握し本人が望む生活への支援を心がけている。意向を伝えきれない利用者においては発した言葉、しぐさなどから思いをくみ取るようにしている。	サービス開始時の段階で、本人や家族と話し合い、一人ひとりの暮らし方の意向や希望を把握するよう努めている。意志の表出が困難な利用者には、一人ひとりの趣味や得意なことに関心を払うなどして把握に努め、言葉や仕草の変化等から思いをくみ取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮を行いながらご本人、ご家族、前任のケアマネージャー、知人等から協力をいただいて情報を把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族との連絡を密に行い前日の様子などからも生活リズムの変化に対応出来るよう安心、安全に生活していただいている。また、本人の今出来る事、有する力を見極めながら働きかけを行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の状態の変化に対応出来るようご本人やご家族の思いを踏まえながら毎日のミーティングや職員会議で話し合い介護計画に反映させている。	家族の希望やサービス担当者会議で検討した内容、職員の気づきなどを介護計画書に反映している。利用者の心身状況の変化に応じて、そのつど介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にその日の身体状況、様子、発した言葉等により職員の気づきなどを具体的に記入し介護計画や評価に活かせる様ミーティングやケア会議で情報を共有しながら話し合っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本体施設のケアハウスのカラオケクラブ、童謡クラブ、美容講習などに参加希望の人は参加されたり、また、ケアハウスの友人とも仲良く交流をされている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域包括支援センターの職員、地域住民の協力を得ながら連携を図り、利用者が安心、安全に生活を継続できるよう支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回協力医の往診、かかりつけ医への受診等、その都度全体の病気、健康管理などの助言をいただいている。	定期的、事業所の協力医療機関の医師による往診がある。かかりつけ医のほか、歯科や眼科等の専門他科の受診は、家族の協力を得たうえで受診を支援するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を中心に介護職員も含めご利用者の日々の状態の変化に気を配り、変化がみられた場合は報告、相談を行い早期に対応できるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要に応じて情報提供を行い、医療機関と連携を図っている。退院後の受け入れ態勢についてもスムーズに生活に戻る事が出来るよう支援を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ早い段階から重症化に至った場合の対応について事業所で出来る事、ご家族がどこまで協力できるか等検討を行い職員間で話し合い折々にご家族に確認を行いながらお互いが納得がいくケアが出来るよう支援を行っている。	サービス開始時の段階で、本人や家族に重度化した場合や終末期に関する事業所の方針を伝達している。本人や家族の意向に応じた対応方針を定めるよう心がけており、事業所での終末期支援にも取り組んでいる。緊急時には、マニュアルに基づいて、職員や関係者間で対応の共有化を図って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応方法についてマニュアルを作成し勉強会やミーティングを通して全職員が周知徹底できるようにしている。また、利用者の急変時等を想定しかかりつけ医と相談して連携を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に地域住民の参加と協力を得て避難訓練を実施しており協力していただく事で地域住民との関係作りも構築できている。また、消火器や設備の定期点検や非常時の食料、備品も準備し点検も行っている。	同一法人の運営する併設の他サービス事業所とともに、災害対策マニュアルを共有している。年2回、消防署の指導のもと、地域住民の参加も得て避難訓練を実施している。事業所独自の地震訓練等も実施しており、災害に対する利用者の不安を軽減を図るよう取り組んでいる。また、消火器や設備の保守点検、非常時の飲料水、食糧、備品等を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のミーティングや職員会議等でプライバシーや尊厳について話し合っており日々、自身を振り返りながら節度をもって細やかな対応や言葉かけが出来るように支援を行っている。	職員は、事業所の理念“利用者を受容し、無条件の尊重で受け入れる”を意識して、日頃の支援を行っている。ミーティングや勉強会を通じて、職員間で尊厳や人権、プライバシーの確保について確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりのこだわりや思いを大切にし、いろんな場面で選択肢の提案を行い自己決定できるよう働きかけ意思表示が困難な方には表情やしぐさにより思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等も考慮しながら個々のペースを大切に休憩場面をつくるなど個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の衣服の着替え時にも本人のこだわりを大切にしながら支援を行っている。また、個別ケアとしてお化粧品や整髪なども行い、気分のリフレッシュや日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔体操と共に歌をうたったりクイズ形式でメニューを紹介しながら食事が楽しみになるよう支援を行っている。	食事は同一法人の運営する併設の他サービス事業所から運び込んでいる。利用者と職員で食事の盛り付けをしたり、配膳を行ったりしている。利用者と職員は、家庭的な雰囲気の中でともに食事を楽しんでいる。また、より家庭的な雰囲気の中で食を楽しむことができるよう、管理者が中心となって、食事の時間帯を柔軟にするよう検討を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、体調に応じて食事形態をかえたり好みの物を提供し栄養バランスのとれた食事が提供できる様に工夫している。水分補給もとりみをつけたりコップも本人の状態にあわせて個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	折々に口腔ケアの重要性を口腔体操時にも声かけなどで行っている。個々の状態に応じたケアを行い、食後の口腔ケアも習慣となるよう本人の意向を尊重しながら清潔保持に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いながら個々に排泄支援を行い自立支援に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成している。利用者の状況を見計らって声掛けを行い、トイレで排泄することができるよう支援している。リハビリパンツやポータブルトイレも活用しており、一人ひとりにあった支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートにより、一人ひとりのパターンを把握している。また体操、歩行運動他身体を動かすことや、飲食物の工夫を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	くつろいだ入浴ができるよう工夫している。車椅子の使用や、仲のいい人とのゆっくりした入浴など希望を取り入れている。	少なくとも週3回は入浴することができるよう支援している。希望に応じて、複数での入浴を楽しんでもらうこともある。また、シャワーチェアや足湯を活用するなど、利用者一人ひとりの意向と心身状態に配慮した入浴支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。ご高齢の方は、1時間くらいの午睡をさされている人もいます。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬時、ご本人を確認の上、必ず付き添ってゴクンと飲み込まれるまでケアしている。主治医と連携を図りながら服薬後の状況、状態の変化など報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除洗濯物の片づけ、食事支度、草ぬき等生活歴を生かした役割分担をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に基づき、園庭へ散歩に行ったり、お花見や氏神さんや近隣へ出かけている。	天候の良い日には、利用者職員で近隣の松林を散歩したり、敷地内の草抜きや日光浴を楽しんだりしている。利用者の希望に応じて、近隣の神社へお参りに行くこともある。移動販売車の来訪時には、買い物を楽しんでもらうなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解の元、施設より買い物やお出かけの際、少額のこづかいを所持していただき自分で支払って購入する事で満足感や楽しさを感じていただけるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者やご家族の希望に応じて電話や携帯電話の使用、手紙のやりとりは自由に行える事を伝えており電話の際はプライバシーに配慮を行いながら席を外したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品など家庭的な雰囲気を感じられるものになっている。松林の中の新しい建物で、ウグイスの声に耳を澄ましたり、広い庭で四季の花を楽しんだり、みなさん快適に過ごされている。	共用空間には、明るい陽射しが差し込んでくる。食事中にはクラシック音楽を流しており、落ち着いた雰囲気がある。廊下の壁面には、利用者の作った作品や写真を飾るなどして、居心地良く過ごす工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い食堂や広い廊下にあるソファーや長椅子、大きい円形テーブルなどを置き、一人一人がくつろげることが出来る空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身で作った手芸品やいただいた手芸品を飾ったり、愛読書や時計鏡などご本人が自宅でも愛用しているものを使っていただく事でゆっくりと落ち着いて過ごす事ができるよう支援を行っている。	事業所では、利用者の馴染みの調度品や家具、手芸品、愛読書、時計鏡等を居室に持ち込んでもらっている。一人ひとりにとって居心地の良い居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中がすべてバリアフリーである。利用者個々に応じた環境整備についてミーティングで常に話し合いを行い、トイレや脱衣所などは利用者の目線で安心、安全に生活できるよう工夫している。		